

2021年度第4回東京競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 山中湖特別

山中湖（やまなかこ）は、山梨県南東部にある淡水湖。富士五湖のひとつで、面積は五湖の中で最も大きい。周辺は豊かな自然を生かした高原リゾート地が広がり、多くの観光客が訪れている。

○ 神無月ステークス

神無月（かんなづき）は、陰暦で10月のこと。「かみなづき」とも呼ばれる。10月に八百万の神々が出雲大社に集まり、諸国に神が居無くなる月という俗説に由来する。

○ サウジアラビアロイヤルカップ（GⅢ）

本競走は、2歳マイル路線のさらなる充実を目的として平成26年に新設された『いちようステークス』を前身とする重賞競走。オープン特別として実施されていた当初は芝1600mであったが、24年より距離が1800mに延伸され、重賞競走に格上げとなった26年に再び1600mに変更となった。

なお、本競走は、サウジアラビアジョッキークラブ（旧リヤド馬事クラブ）より寄贈賞を受けて実施されている。

<第2日>

○ 六社ステークス

六社（ろくしゃ）は、東京競馬場に近接する大國魂神社の別称。武蔵大國魂神を主神とする神社で、八神を祭り、うち六神は武蔵国の有力神であることから、六所宮や六社明神とも言う。5月5日の例大祭は、深夜に町中の灯が消され、その暗闇の中を8基の神輿が御旅所まで渡御することから、くらやみ祭と呼ばれている。

○ グリーンチャンネルカップ（L）

グリーンチャンネルは、BSデジタル放送、CSデジタル放送および全国のケーブルテレビなどで、中央競馬のレースを中心とした競馬情報と各種農林水産情報を放送している放送局。本競走は、同局より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 毎日王冠（GⅡ）

本競走は、昭和 25 年に創設された重賞競走。当初は距離 2500m、定量の勝抜制で実施されていた。30 年に負担重量が別定重量に改められたことを機に、過去の優勝馬にも出走資格が与えられ、59 年に現在の距離 1800mに変更された。

なお、第 1 着馬には同年の天皇賞（秋）への優先出走権が与えられる。

毎日新聞社は、東京など全国に 4 ヶ所の本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第 3 日>

○ プラタナス賞

プラタナス (Platanus) は、スズカケノキ科スズカケノキ属の落葉高木の総称。ヨーロッパ南部からアジア西部が原産地で、日本には明治時代に伝わったとされる。花言葉は「天才」「非凡」。

○ 白秋ステークス

白秋（はくしゅう）は、秋の異称。中国の五行思想では、四季に色を当てはめ、それぞれ「青春・朱夏・白秋・玄冬」と表現される。

○ アイルランドトロフィー府中牝馬ステークス（GⅡ）

本競走は、昭和 28 年に創設された『東京牝馬特別』を前身とする重賞競走。創設時は 2000 mであったが、昭和 30 年に 1600mとなり、平成 8 年にはエリザベス女王杯の前哨戦として 1800mに延伸され、23 年に GⅡ 競走に格上げされた。なお、第 1 着馬には同年のエリザベス女王杯への優先出走権が与えられる。

また、29 年より『アイルランドトロフィー府中牝馬ステークス』と競走名が変更され、同国のレパーズタウン競馬場との交換競走として実施されている。同競馬場は、ダブリンの南に位置し『アイリッシュチャンピオンステークス』などが実施されている。

<第 4 日>

○ 東京ハイジャンプ（J・GⅡ）

本競走は、平成 11 年に創設された障害重賞競走。通常の競走では高さ 130cm の竹柵 2 基と 140cm のいけ垣が使用されるが、本競走では、高さ 150cm の大いけ垣 2 基と大竹柵に変更して実施される。また、スタンド前のホームストレッチ半ばに可動式障害が設置されることにより、長い直線で最後まで目が離せない争いが繰り広げられる。

○ テレビ静岡賞

テレビ静岡は、静岡市に本社を置く放送局。昭和 43 年の開局で、FNS（フジテレビ）系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ オクトーバーステークス（L）

オクトーバー（October）は、10 月を意味する英語。ラテン語で「8」を意味する「Octo」が語源とされ、古代ローマで採用されていた 3 月起算の暦において 8 番目の月という意。

○ 鷹巣山特別

鷹巣山（たかのすやま）は、東京都奥多摩地区にある標高 1,737m の山。埼玉県の三峰山から雲取山を経て、七ツ石山、六ツ石山へと続く奥秩父山塊の途中にある。

<第 5 日>

○ アイビーステークス（L）

アイビー（Ivy）は、ウコギ科キヅタ属の常緑つる性低木。蔦（ツタ）の一種。耐寒性に優れ、日陰でもよく育つことから庭園などで栽培されることが多い。花言葉は「誠実」「友情」。

○ 赤富士ステークス

赤富士（あかふじ）は、早暁のわずかな時間に富士山が朝日に照らされ赤く染まる現象。晩夏から初秋にかけて見ることができる。葛飾北斎の『凱風快晴』をはじめとして、多くの絵画の題材に用いられている。

○ 富士ステークス（G II）

本競走は、ジャパンカップの招待を受けた外国馬が出走できる競走として、第 1 回ジャパンカップと同年の昭和 56 年に芝 1800m の定量戦として創設された競走。平成 9 年より 1400m の別定重量戦として通常の国際競走に改められ、10 年には G III 競走となった。その後、12 年からマイルチャンピオンシップに繋がる競走として、実施時期は 11 月から 10 月に、距離は 1600m に変更され、令和 2 年より G II 競走へ格上げされた。なお、第 1 着馬には同年のマイルチャンピオンシップへの優先出走権が与えられる。

富士は、静岡県と山梨県にまたがる円錐状成層火山。標高 3,776m で日本一を誇る。平成 25 年 6 月には、「富士山－信仰の対象と芸術の源泉」としてユネスコの世界文化遺産に登録された。

<第6日>

○ tvk賞

tvkは、横浜市に本社を置くテレビ神奈川の略称。昭和47年開局。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 甲斐路ステークス

甲斐路（かいじ）は、甲斐国全体に通じている路。甲斐国は、旧国名のひとつで今の山梨県全域に当たる。古代甲斐国は「甲斐の黒駒」と言う名馬の産地として伝えられ、平安時代には信濃・上野・武蔵とともに天皇直属の牧場が置かれ、毎年都に馬を献上する駒牽（こまひき）が行われていた。

○ ブラジルカップ（L）

本競走は、日本とブラジルの修好100周年を記念して平成7年に創設された競走。

ブラジルは、南アメリカに位置する連邦共和制国家。南米大陸で最大の面積を誇る。同国内にあるガベア競馬場では、『ブラジル大賞典』や同国のダービーにあたる『クルセイドスル賞』が実施される。

<第7日>

○ 伊勢佐木特別

伊勢佐木（いせざき）は、横浜市中区の地名および商店街。明治時代以来、横浜を代表する繁華街として発展してきた。

なお、イセザキモールの中にはJRAの場外勝馬投票券発売所であるエクセル伊勢佐木がある。

○ 紅葉ステークス

紅葉（こうよう）は、秋に落葉樹の葉の色が変化する現象。落葉に先立って、葉で赤色のアントシアニンが生成されるために起こる。一般的に最低気温が5～6℃になる頃に見頃を迎えると言われている。秋になると東京競馬場周辺の木々も鮮やかな紅葉で彩られる。

○ アルテミスステークス（GⅢ）

本競走は、2歳牝馬路線のさらなる充実を目的として、平成24年に新設された牝馬限定重賞競走。1600mの馬齢重量戦で争われ、関東地区における『阪神ジュベナイルフィリーズ』の前哨戦として位置づけられている。

アルテミス（Artemis）は、ギリシャ神話に登場する狩猟と純潔の女神。古代ギリシャでは、豊穡や多産の神として人々に信仰されてきた。

<第8日>

○ 本栖湖特別

本栖湖（もとすこ）は、富士山の北麓にある淡水湖。富士五湖のひとつで、最大水深が五湖の中で最も深い。現在の千円札の裏側には、富士山と本栖湖面に映る逆さ富士が描かれている。

○ 国立特別

国立（くにたち）は、東京都中央部の市。市名は、大正15年に中央線の国分寺駅と立川駅の間で2つの駅名の頭文字を取った「国立駅」が開業したことに由来する。駅から南に伸びる大学通りは、桜やいちょうなどの木で彩られる。

○ 秋嶺ステークス

秋嶺（しゅうれい）は、秋の山、嶺のこと。秋は空気が乾燥し、澄んでいるので遠く離れた山々を鮮明に見ることができる。

○ 天皇賞（秋）（G I）

本競走は、明治38年5月6日に横浜の日本レスクラブが、明治天皇から『菊花御紋付銀製花盛器』を下賜され創設した『エンペラーズカップ』を前身とする競走。

第1回の昭和12年秋は2600m、13年春が2700mで、3歳以上の馬によって争われた。13年秋から4歳以上3200mの競走条件となり、戦争で中断される19年春（この時は能力検定競走として非公開で実施）まで続き、戦後の22年春に『平和賞』の名で復活。同年秋から現在の名称である天皇賞となり、春が京都、秋は東京で実施され、長い歴史を誇る天皇賞は古馬最高の栄誉とされてきた。56年に勝抜制が廃止されて過去の優勝馬にも出走権が与えられ、59年には秋の天皇賞を2000mに短縮、さらに62年には3歳馬にも秋の天皇賞への出走権が与えられた。これにより春は4歳以上で長距離の、秋は3歳以上で中距離のナンバーワンを決めるレースへと性格が明確に分けられた。

○ 河口湖特別

河口湖（かわぐちこ）は、山梨県南都留郡の富士山北麓に位置する淡水湖。富士五湖のひとつで、湖面標高は五湖の中で最も低い。湖中には、鵜の島と呼ばれる小さな島が浮かび、縄文時代や弥生時代の土器や石器が多数出土している。